

「戦争と平和！」

第 21 回

敗戦という教訓から、再び新たな「平和ビジョン」を掲げませんか

石堂 智士

① 私のふるさと

私は、昭和 23 年 1 月生まれなので、戦争を知りません。幼少期に、母親から昭和 20 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分の原爆投下時の状況を聞いたことがあります。母親が住んでいた広島市白島九軒町は、原爆ドームから 2 キロぐらいのところでした。突然の雷光の後、爆風による板塀倒壊で怪我をしたこと、直後の火災発生で町全体が焼け出されたことを知りました。避難した場所はすぐ近くの京橋川の河原で、たくさんの人々が逃れてきて大変だったようです。母親の家族は、自分たちがよく助かったものと言う。一生忘れられない出来事を経験したのでしょう。それで、物心ついた小学生時分の私たち子供に、恐ろしかった自分の被爆体験を語ってくれたのでしょうか。団塊世代の私にとって、母親の被爆体験は貴重な思い出の一つです。

② 傍聴席の体験

会社を退職した後は、人生でやり残した自然科学の世界を究めたいと考え、市内の各図書館を自転車ですりながら余生を楽しんでいました。そうした中で、市民大学に寄り道をして、戦争責任の一端を学び、次の 100 年を考えてみたいと思うときに、傍聴席と出会いました。政治と歴史など社会科学を学ぶことは初めてで新鮮に感じました。市政の傍聴も、全くの初体験でしたが、ここ 3 年は習うよりも慣れると市議会の傍聴に勤しむことができて、少し政治がわかるようになりました。また政治を学ぶため、図書館でいろいろな歴史ものを読みました。そこで、政治をよくするために学習したことがあります。現在の政治は、過去の歴史の反省に立っていることがわかりました。

③ 敗戦という教訓

現代日本政治の原点は、太平洋戦争の敗戦後の日本復興にありました。2 度の世界大戦の反省から、国際連盟を刷新した国際連合(国連)が米国につくられ、加盟する国は戦争をしかけられても、国連の許可がなければ戦争をすることはできません。国対国の戦争は禁止されましたが、依然として小戦闘や内戦などが世界中で起こっています。戦争を抑止するため、核爆弾を持つとか、国連軍を増強する現実があります。広島・長崎の原爆投下や、沖縄の玉砕や、東京大空襲や、インパール玉砕や、中国侵攻など太平洋戦争の日本人死者数は 310 万人といわ

れています。日本国は、太平洋戦争の敗戦によって、大勢の国民を死なせただけでなく、多くの産業基盤も喪失しました。まさに日本国 2000 年の歴史の中で悲惨な敗戦でした。この敗戦を歴史の教訓として、日本は平和の国を目指しました。

④ 再び新たな「平和ビジョン」を掲げて

いま、皆さんの中に戦後の夢であった「平和な国」日本の具体的な姿がありますか？ 戦後の日本経済は、先進国のトップを競うまでに発展しました。しかし、世界の国々は日本を平和の象徴として見ているのでしょうか？ 私には日本が世界平和をリードしているように思えません。戦争を起こし、侵略をして、敗戦した国として、日本は世界平和をリードする国家になるべきだと思います。明治維新以後、近代社会を受け入れ、苦勞して産業立国を成し遂げた日本は、徳川時代の 200 年を超える平和な時代を持続することが必要です。世界では、国連の常任理事国の争いの中で世界平和が停滞する時代を迎えています。日本は、世界平和を目指して、一步でも前進する気高い精神を再び示すべき時ではないでしょうか。自然が豊かで穏やかな心を育む日本文化を知りたい人々が増えています。敗戦の教訓から、日本は再び新たな「平和ビジョン」を掲げて、戦後百年を超えて、次の百年も平和時代を続けたいと思いませんか。

*本原稿を書くにあたり、参考にした本：

「戦争まで (歴史を決めた交渉と日本の失敗)」加藤陽子著

「憲法の無意識」柄谷行人著

「日本を創った 12 人」堺屋太一著



戦争まで (歴史を決めた交渉と日本の失敗)



憲法の無意識



日本を創った 12 人